

ISSN 0912-778X

穂別町立博物館館報

第14号

平成8 (1996) 年度

穂別町立博物館

目 次

- 沿 設 革(p.1)
- 施 設 の 概 要(p.4)
- 施 設 平 面 図(p.4)
- 展 示 活 動(p.5)
- 収 蔵 資 料 概 要(p.6)
- 資 料 収 集 保 存 活 動(p.6)
- 調 査 研 究 活 動(p.8)
- 普 及 教 育 活 動(p.10)
- 運 営(p.12)

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

I 「建設の目的」と「展示更新」 の基本的考え方

〈穂別町郷土資料館建設の目的〉(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

〈展示更新の基本的考え方〉(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわらず、模型は「生きていたと

きの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

II 沿革

昭和50(1975)年6月

穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏(穂別町在住)。

昭和51(1976)年9月

佐藤昌人指導員(苫小牧青少年センター)・佐藤隆久教諭(穂別町立仁和小学校)、荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員(国立科学博物館)に鑑定依頼。

昭和52(1977)年2月

長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鰭の一部と確認。

昭和52(1977)年7月5～8日

「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

昭和53(1978)年5月
「ホバツアラキリュウ」標本のクリーニング
(剖出)作業開始。

昭和53(1978)年11月
穂別町立郷土資料館、開館(旧・穂別町立さく
ら保育所施設利用)。

昭和54(1979)年5月
長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定。

昭和55(1980)年10月16日
「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足。

昭和56(1981)年3月13日
施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博
物館に変更。

昭和56(1981)年7月～12月
博物館建設工事開始。

昭和56(1981)年9月1日
鈴木 茂学芸員就任。

昭和57(1982)年1月16日
長頸竜復元作業開始。

昭和57(1982)年3月～6月
博物館展示工事行われる。

昭和57(1982)年7月20日
博物館開館。一般公開開始(初代館長：今幸太
郎教育長兼任)。

昭和57(1982)年8月26日
「博物館協議会」発足。

昭和57(1982)年11月1日
北海道博物館協会加入。

昭和57(1982)年12月19日
長頸竜復元骨格展示公開。

昭和57(1982)年12月19日
特別展「よみがえるクビナガリュウ」開催。

昭和58(1983)年3月2日
博物館法による登録博物館となる(北博登第28
号)。

昭和58(1983)年3月28日
「博物館協力会」設立。

昭和58(1983)年4月1日
日本博物館協会加入。

昭和58(1983)年4月28日
菅原康次(第二代)館長就任。

昭和58(1983)年7月22日～8月7日
収蔵資料展「地図展」開催。

昭和58(1983)年8月1日
全国科学博物館協議会加入。

昭和59(1984)年2月
村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊。

昭和59(1984)年3月27日
「穂別町立博物館研究報告」刊行開始。

昭和59(1984)年6月14日
第二展示室(町立博物館保存庫)完成。

昭和59(1984)年11月1日～4日
収蔵資料展「古い写真・古い文書展」開催。

昭和59(1984)年12月1日
桜庭勝美(第三代)館長就任。

昭和60(1985)年3月30日
「穂別町立博物館館報」刊行開始。

昭和60(1985)年5月1日
地徳 力学芸員就任。

昭和60(1985)年11月1日
特別展「北海道一億年」開催。

昭和61(1986)年10月21日
特別展「穂別の自然」開催。

昭和62(1987)年1月1日
今幸太郎(第四代)館長就任(教育長兼任)。

昭和62(1987)年7月28日
特別展「アンモナイトの系図」開催。

- 昭和63(1988)年7月17日
第三展示室（保存庫）完成。
- 昭和63(1988)年8月23日
特別展「穂別のカメ化石」開催。
- 昭和63(1988)年10月6日
今 幸太郎（第五代）館長就任（専任）。
- 平成1(1989)年6月30日
仲谷 英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表。
- 平成1(1989)年7月18日
特別展「穂別のむかし」開催。
- 平成1(1989)年9月29日～10月6日
学芸員，カナダ・アルバータ州ティール古生物学博物館に派遣。
- 平成2(1990)年7月23日
ドラムヘラー市長夫妻（カナダ，アルバータ州）来館。
- 平成2(1990)年8月18日
特別展「戦争と穂別」開催。
- 平成2(1990)年9月3日～5日
レイド，M. G. 氏（アルバータ州ティール古生物学博物館）来館。
- 平成2(1990)年12月31日
野田藤雄（第六代）館長就任（教育長兼任）。
- 平成3(1991)年4月1日
佐藤 稔（第七代）館長就任。
- 平成3(1991)年4月28日，29日
入館者10万人突破記念事業。
- 平成4(1992)年2月1日
展示更新工事開始。
- 平成4(1992)年4月23日～25日
カリー，P. J. 氏（アルバータ州ティール古生物学博物館）来館。
- 平成4(1992)年4月29日
展示更新完了，一般公開再開。
- 平成6(1994)年4月1日
野田藤雄（第八代）館長就任（教育長兼任）。
- 平成6(1994)年4月1日
川上源太郎学芸員就任。
- 平成7(1995)年7月15日～9月12日
学芸員，カナダ・アルバータ州ティール古生物学博物館に派遣，研修。
- 平成8(1996)年10月6日
大江美津夫（第九代）館長就任。

*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが、以下に従っている。

「長頸竜」：動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式。

「首長竜」：分類学上の名称としては適切ではないが、この場合「発掘調査団」の固有名称として使用。

「クビナガリュウ」：正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが、通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから、この場合固有名称として使用。

「ホベツアラキリュウ」：昭和52(1977)年7月5～8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称。

●施設の概要

【位置】

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

【構造規模】

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建
建築面積：1,100m²

常設展示室	372.88m ²
特別展示室	99.08m ²
収蔵庫	86.56m ²
事務室	40.50m ²
研究室	31.50m ²
整理室	29.92m ²
学習展示室	184.75m ²
書庫	35.05m ²
共用部門	219.76m ²

【工期】

昭和56年度～57年度

【総事業費】

3億7,276万5,000円

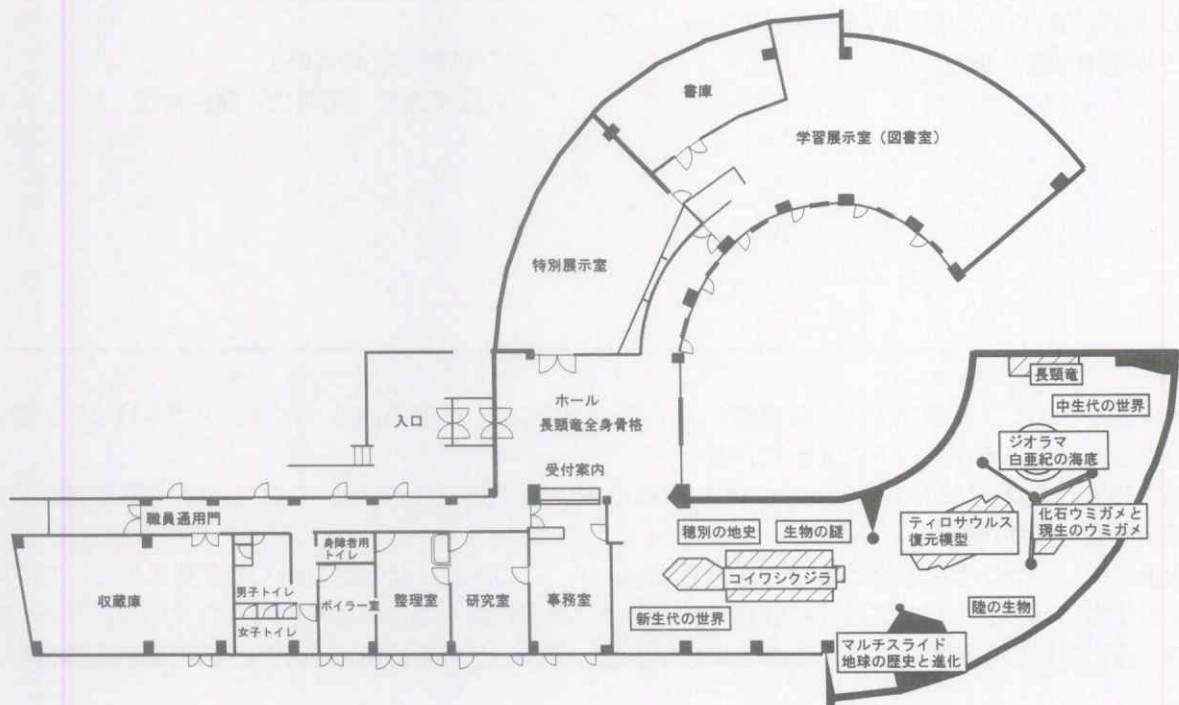
【展示更新】

平成3年度～平成4年度：博物館展示替え工事。
平成5年度：マルチスライド、イメージソフト制作。

【更新事業費】

平成3年度～4年度：99,910,000円（内消費税2,910,000円）
平成5年度：6,890,700円（内消費税200,700円）

●施設平面図



●展示活動

I 特別展示

諸般の事情により平成8(1996)年度の特別展示は実施できなかった。

II 常設展示

【学校週5日制関連事業】

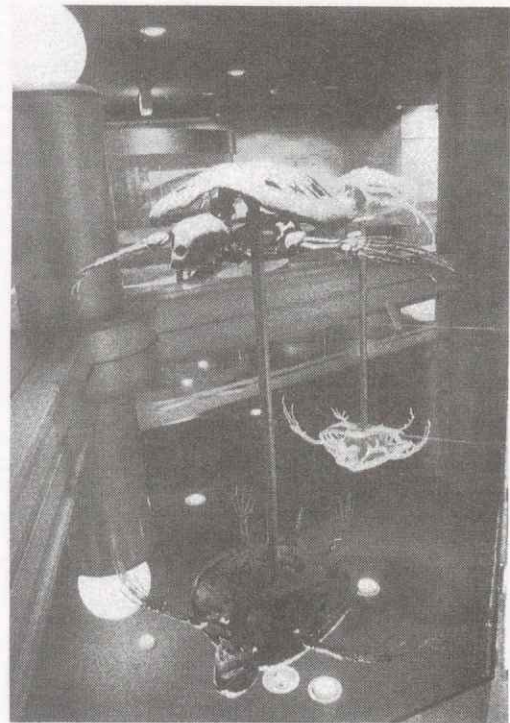
学校週5日制実施にあわせて町民無料観覧を実施。毎月第二・第四土曜日を町内の児童生徒無料観覧の日とする。

【博物館開館記念日関連事業】

7月20日の開館記念日に関連して、平成8(1996)年7月20日(土)~7月26日(金)を町民無料観覧の日とした。

【常設展示資料】

長頸竜化石	11点
モササウルス	7点
カメ化石	9点
魚竜化石	1点
魚類化石	7点
頭足類化石	86点
巻貝化石	27点
二枚貝化石	40点
掘足類化石	3点
甲殻類化石	9点
ウニの化石	5点
クジラの化石	8点
デスモスチルスの化石	4点
マンモスの化石	1点
植物化石	2点
霊長類化石	7点
岩石その他	27点
計	254点



新属・新種として記載された白亜紀オサガメ化石

【博物館特定入館日に伴う町民無料入館者利用状況調べ】

実施日	行事名	一般	小・中・高生	計
'96.4.1~'97.3.31	学校週5日制(年23回実施)	0	44	44
7.20~26	博物館開館記念日(7日間)	18	13	31
9.15	敬老の日	15	4	19
11.3	文化の日	18	16	34
11.23	勤労感謝の日	19	1	20
1.15	成人の日	7	7	14
計	延べ35日	77	85	162

(単位:人)

●収蔵資料概要

【自然史系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	180	2	18	200
処 理 中	2	0	0	2
貸 出 中	14	0	0	14
収 蔵 庫	837	4	6	847
計	1,033	6	24	1,063

【人文系資料】

収蔵場所	資料数
常 設 展 示 室	0
収 蔵 庫	3,583
貸 出 中	9
計	3,592

(いずれも1997.3.31.現在, 未登録資料は除く)

【自然系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	1	0	0	1
貸 出	22	0	0	22
収 蔵 庫	31	23	0	54
計	54	23	0	77

●資料収集保存活動

平成8(1996)年4月1日～平成9(1997)年3月31日の寄贈・採集資料を順に記した。(敬称略)

I 寄 贈

【自然史系資料】 8件

脊椎動物化石	1点	服部義幸
アンモナイト	1点	古野竹志
生痕化石	1点	神田英治
アンモナイト他	多数	千歳化石会
ノジュール	多数	千歳化石会
ノジュール	6点	千歳化石会
アンモナイト他	29点	阿部利春
ノジュール	2点	千歳化石会

【自然系資料】 3件

アオウミガメ	1点	山田和彦
沖縄/ハワイ産貝類	55点	佐々木尚子
ノスリ?	1点	穂別町教育委員会

【人文系資料その他】 7件

昆虫文献	9点	神田英治
改良鋸/背負子	4点	都鳥 博
富内線復旧工事写真 (移管)	1点	穂別町役場

映画「穂別のマスクメロン (移管)	1点	穂別町役場
化石クリーニング用資材 (発砲スチロール板)	100点	千歳化石会
カメラ	7点	穂別町役場
シンガーミシン	1点	博物館協力会

II 採 集

【自然・自然史系資料】*主なもののみ

05月08日	富内	ノジュール(球果)
05月15日	長和	ノジュール(ウミユリ)
05月15日	仁和	貝化石
05月17日	仁和	貝化石
05月22日	苫小牧	第四紀・火山砕屑性堆積物
05月25日	稲里	ノジュール
06月10日	和泉	貝化石
06月15日	稲里	サメの椎骨・アンモナイト
06月25日	和泉	岩石資料
07月08日	穂別	巻貝化石
08月15日	苫小牧	樽前山溶岩
08月16日	稲里	ノジュール
09月30日	穂別	貝化石
10月01日	浜厚真	現生貝類

11月03日	稲里	ノジュール
01月20日	浜厚真	現世クジラ椎骨

Ⅲ 資料の貸出

平成8(1996)年4月1日～平成9(1997)年3月31日

アンモナイト・イノセラムス：穂別地球体験館，
2点

平成8(1996)年4月1日～平成9(1997)年3月31日

人文系資料：みどりと文芸の館（富内），6点

平成8(1996)年4月1日～平成9(1997)年3月31日

自然系資料（剥製）：穂別町立穂別小学校，20
点

平成8(1996)年7月15日～8月7日

クビナガリュウ全身復元模型：札幌商工会議所，

創立90周年記念事業「夏休み学習博」にて展示，
1点

平成8(1996)年5月11日～平成9(1997)年8月31日

ウミガメ化石：帝京平成大学平山 廉博士，3点

平成8(1996)年6月14日～平成9(1997)年3月31日

人文系資料・自然系資料：穂別町立和泉小学校，
6点

平成8(1996)年8月1日～平成9(1997)年8月31日

ウミガメ化石：帝京平成大学平山 廉博士，5点

平成8(1996)年10月25日～10月27日

人文系資料：穂別町立仁和小・中学校，仁和小
学校100周年・仁和中学校50周年記念式典「歩み
展」にて展示，3点

I 脊椎動物化石の研究

【総論】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)
公表論文・講演:
[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 47-52.

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)
公表論文・講演:
[1990] 穂別町立博物館研究報告, [6], 37-35.
[1993] 日本地質学会第100年学術大会(東京)夜間小集会口頭発表
[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)一般発表
[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

【デスモスチルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託
公表論文・講演:
[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 11-23.
[1984] 地団研専報, [28], 51-61. (松井 愈・山口昇一 共著)
[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 51-62.

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託
公表論文・講演:
[1984] 地団研専報, [28], 63-68.

【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託
一島啓人(オタゴ大学)氏に研究委託
公表論文・講演:
[1992] 穂別町立博物館研究報告, [9], 37-44.
[1994] The Island Arc, [3], 473-485.
[1994] The island Arc, [3], 486-492.

【ウミガメ】

平山 廉(帝京平成大学)講師に研究委託
公表論文・講演:
[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 17-30. (鈴木 茂 共著)
[1992] 穂別町立博物館研究報告, [8], 17-57.

[1992] 日本地質学会第99年学術大会(熊本)口頭発表

[1994] 地団研専報, [43], 17-24. (地徳 力 共著)

[1994] The Island Arc, [43], 270-284.

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

[1995] 日本地質学会第102年学術大会(広島)口頭発表

[1996] 日本古生物学会報告・紀事, [184], 597-622. (地徳 力 共著)

【長頸竜】

仲谷英夫(香川大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1981] 日本地質学会第88年学術大会(東京)口頭発表

[1982] 日本地質学会第89年学術大会(新潟)口頭発表

[1982] 動物と自然, 12, 11-16.

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 37-40.

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 43-49.

[1989] 穂別町立博物館研究報告, [5], 43-48.

[1989] 日本古生物学会報告・記事, [154], 96-116.

【モササウルス】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)氏が研究

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 31-42.

[1985] 地学団体研究会専報, [30], 45-66.

地徳 力(穂別町立博物館)学芸員が別資料の研究継続

公表論文・講演:

[1987] 日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭発表

[1990] 日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表

[1990] 日本地質学会北海道支部報, [1], 45-46

[1991] 穂別町立博物館研究報告, [7], 9-14. (紀藤典夫 共著)

[1994] 穂別町立博物館研究報告, [10], 39-54.

【サメ】

久家直之, 京都大学大学院院生に研究委託
公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [1], 33-36.

【翼竜】

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1994] 日本地質学会北海道支部総会講演

[1996] 穂別町立博物館研究報告, [12], 17-22.

Ⅱ 刊 行 物

【穂別町立博物館館報】

第13号, 18頁: 平成8(1996)年7月1日発行

【穂別町立博物館研究報告】

第13号, 70頁: 平成9(1997)年3月30日発行

<著者及び論文題名>

木村方一・広田清治・清野智佳子: 1-7頁

北海道羽幌町の中期中新統から産出した鱈脚
類下顎骨化石について

古江良治・新井田清信・加藤孝幸: 9-26頁

神居古潭帯のオフィオライト質クロミタイト
の成因

川上源太郎: 27-42頁

北海道穂別地域に分布する, 中新世堆積岩類
の岩相と堆積環境

地徳 力: 43-68頁

穂別町立博物館に寄贈された佐々保雄名誉教
授一括資料について(概報)

Ⅲ 参加学会・博物館協会研修会

平成8年3月31~4月4日: 日本地質学会第103年学術
大会(仙台)

平成8年9月11~13日: 北海道博物館協会・学芸職
員部会研修会(小樽市交通記念館)

●普及教育活動

I 博物館講座

【自然観察会】

実行事業無し。

【化石クリーニング教室】

学校その他の団体で要望があった際に、随時開講とした（Ⅲ その他を参照のこと）。

II ホッピーだより（博物館広報）

【内容】

137号（平成8(1996)年4月）

「寄贈・収集資料紹介」

138号（平成8(1996)年5月）

「進化論って何？ ～“種”を分けることの難しさ～」

139号（平成8(1996)年6月）

「完成“かせき学習館”」

140号（平成8(1996)年7月）

「生物進化のながれを示す“系統樹”」

141号（平成8(1996)年8月）

「巡検参加報告“後期更新世テフラ”」

142号（平成8(1996)年9月）

「モサゴンの仲間たち—交換文献資料から—」

143号（平成8(1996)年10月）

「近況報告—最近の活動から—」

144号（平成8(1996)年11月）

「地層の話—その形成プロセス—」

145号（平成8(1996)年12月）

「地層を調べる—過去の記録を読む—」

146号（平成9(1997)年1月）

「地質図を描く1—柱状図と地層の対比—」

147号（平成9(1997)年2月）

「地質図を描く2—柱状図から地質図へ—」

148号（平成9(1997)年3月）

「地質図を描く3—地層の構造と地表分布—」

III その他

【穂別町新任教職員町内研修】

平成8(1996)年6月18日：穂別町新任教職員（5名）館内研修

【普及講演会】

平成8(1996)年8月20日：「穂別の地質」

【苫小牧市博物館普及講演会（市民大学講座）】

平成8(1996)年8月24日：「地質から見た東胆振」

【理科野外実習指導】

平成8(1996)年10月4日：穂別小学校6年生地層見学・館内見学・化石採集指導（44名）

【穂別町教育研究会】

平成8(1996)年10月15日：クリーニング実習（18名）

【寿学級普及講演会】

平成8(1996)年10月22日：「太古の世界」講演

【郷土学習指導】

平成8(1996)年10月26日：郷土学習「ホッピー通り探検」（12名）

【占冠村PTA連合会教育講演会】

平成8(1996)年11月16日：「化石の世界」講演

【千歳化石会講演会】

平成8(1996)年12月1日：「地層につけられた呼び名について—岩相層序・年代層序・地質年代—」講演

【穂別町教育研究会理科サークル】

平成8(1996)年12月6日：クリーニング実習（10名）

【社会科課外授業指導】

平成9(1997)年2月4日：穂別小学校3年生収蔵庫
見学(27名)

【町内教育・福祉団体の利用】

平成8(1996)年7月10日：穂別町立仁和小学校2
年生(5名)

平成8(1996)年9月6日：穂別町立穂別中学校
(38名)

平成8(1996)年10月30日：寿学級(23名)

【町外教育・福祉団体の利用】

平成8(1996)年5月：

18日：恵庭市立恵庭中学校(165名)

20日：道立札幌平岸高等学校(419名)

21日：別海町立中春別中学校(29名)

28日：津別町立本岐中学校(18名)

29日：夕張市立幌南中学校(16名)

28日：道立向陽学院(34名)

平成8(1996)年6月：

25日：茨城県水戸市立石川中学校2年生(48
名)

平成8(1996)年7月：

2日：札幌市立東札幌小学校6年生(122
名)

4日：石狩町立樽川中学校2年生(183名)

5日：石狩町立樽川中学校1年生(212名)

10日：苫小牧市立明野中学校2年生(174
名)

10日：富良野市立布部中学校2年生(8名)

15日：道立真狩高等学校2年生(29名)

16日：様似町立鶉苫小学校4・5年生(16名)

17日：平取町立貫気別中学校1・2・3年生(62
名)

17日：美唄市立茶志内中学校2年生(26名)

25日：室蘭ピノキ才幼稚園(62名)

30日：千歳市立北斗中学校3年生(19名)

平成8(1996)年9月：

3日：札幌市立福井野小学校6年生(112
名)

11日：道立岩見沢西高等学校1年生(250
名)

12日：江別市立大麻東小学校6年生(89名)

21日：宮城教育大学地学教室学生巡検，川村
寿郎助教授引率(22名)

27日：信州大学学生巡検，山田哲雄教授・村
越直美博士引率(28名)

平成8(1996)年11月：

7日：門別町富川ひばり幼稚園(62名)

12日：門別町富川ひばり幼稚園(35名)

13日：門別町富川ひばり幼稚園(74名)

I おもなできごと

平成8(1996)年4月：
 27日：加藤 誠北海道大学名誉教授ほか（2名）来館

平成8(1996)年5月：
 4日：化石採集会（千歳化石会）
 12日：化石採集会（千歳化石会）
 19日：「最終間氷期勉強会」巡検参加（苫小牧美沢・早来町東早来・厚真町朝日）

平成8(1996)年6月：
 15日：化石採集会（千歳化石会）

平成8(1996)年7月：
 3～5日：北海道博物館協会大会（厚岸）
 3日：梁 承栄教授（韓国慶北大学師範大学）来館。町内地質案内
 26日：天野和孝博士（上越教育大学）来館
 27日：北海道化石サミット開催
 30日：西田民雄教授（佐賀大学教育学部）／三次徳二博士（早稲田大学理工学研究科）来館

平成8(1996)年8月：
 8日：木村方一教授（北海道教育大学）ほか（2名）来館
 12日～22日：静修女子大学学芸員実習生受入
 14日：樽前山巡検
 16日：化石採集会（千歳化石会）
 20日：新井田清信助教授（北海道大学）・保柳康一助教授（信州大学）ほか（3名）来館
 21日：古川竜太氏（北海道大学大学院）来館
 30日：二上政夫博士（川村学園女子大学）ほか来館

平成8(1996)年9月：
 3日～4日：平山 廉講師（帝京平成大学）来館

平成8(1996)年10月：
 12～13日：博物館協力会研修旅行（滝川・留萌・小平・益毛）
 16日：国立大雪青年の家所長佐藤仁志氏来館

平成8年(1996)年11月：
 3日：化石採集会（千歳化石会）

平成8年(1996)年12月：
 8日：千代川謙一氏（千歳化石会）来館

平成9(1997)年1月：
 28日：北海道博物館協会役員会（札幌）

平成9(1997)年2月：

28日：山田吾郎学芸員（北海道開拓記念館）来館

平成9(1997)年3月：
 22日：千代川謙一氏（千歳化石会）ほか（3名）来館
 25日：中川 元館長（斜里町立知床博物館）来館

II 町外自治体などの視察

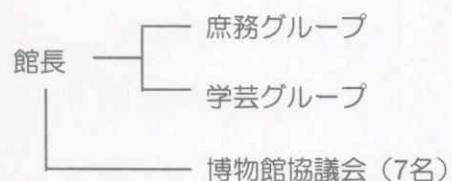
平成8(1996)年6月：
 16日：大阪科学技術センター普及事業部長ほか（4名）視察

平成8(1996)年7月：
 16日：鹿児島県吉松町議会議員（7名）視察
 24日：新十津川町議会議員（9名）視察

平成8(1996)年8月：
 19日：土別市議会議員（6名）視察
 28日：千歳市教育委員会社会教育課（2名）／遠別町議会議員（10名）／胆振管内教育委員会次長・課長連絡協議会（33名）視察

平成8(1996)年10月：
 2日：三笠市議会議員・三笠市立博物館館長（6名）視察

III 組 織



職員名簿 (平成9(1997)年3月31日現在)

館 長 大 江 美津夫
 庶務主任 佐 藤 貞 子
 学芸主幹 地 徳 力
 学 芸 員 川 上 源太郎

博物館協議会委員(平成9(1997)年3月31日現在)

会 長 荒 木 新太郎
 副会長 小石川 武 美
 委 員 石 倉 徳 益
 委 員 久保田 瑞 真
 委 員 谷 口 弘

委員 藤 江 保 徳
委員 村 上 隆
(平成10(1998)年7月31日まで)

IV 利用状況

【常設展示観覧者】

平成8(1996)年4月～平成9(1997)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	1,061	393	1,454	26
5	3,421	2,113	5,534	26
6	998	303	1,301	25
7	1,701	1,384	3,085	31
8	3,169	1,757	4,926	30
9	1,633	844	2,477	22
10	1,056	337	1,393	25
11	438	207	645	23
12	61	27	88	23
1	54	33	87	20
2	54	14	68	22
3	284	46	330	24
計	13,930	7,458	21,388	297

(単位：人・日)

V 博物館使用料収入

区分		有料入館者数	使用料
一般	個人	12,069	3,620,700
	団体	1,297	259,400
学生	個人	4,763	476,300
	団体	2,520	126,000
合計		20,649	4,482,400

(単位：人・千円)

VI 平成8年度予算

費目	予算
報 酬	91
共 済 費	253
賃 金	3,967
報 償 費	385
旅 費	426
需 用 費	7,972
役 務 費	553

委 託 料	5,991
使用料及び賃借料	1,150
原 材 料 費	220
備 品 購 入 費	80
負担金補助及び交付金	165
博 物 館 費 合 計	21,253

(単位：千円)

VII 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

【休館日】

月曜日・祝日の翌日・毎月月末・年末年始
(12月30日～1月6日)

【観覧料】

	一般	*学生
個人	300円	100円
**団体	200円	50円

注：未就学児童は無料（要大人の付添い）

* 学生：小・中学生・高校生

**団体：10人以上

【減 免】

「(穂別町立)博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない(穂別町立博物館設置条例、第6条)」が「(穂別町)教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる(同条例、第7号)」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則 第6条条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

(教育目的)

1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合

(研究目的)

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

(福祉目的)

- 3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合
- 4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養

護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

- 5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館館報

第14号

平成8(1996)年度

発行 1997年7月30日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02 北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 穂別誠和学園

〒054-03 北海道勇払郡穂別町字富内114番地

TEL 01454-6-6014

